

三陸の海を
放射能から守る岩手の会
ミニコミ通信

第8号



2005(平成17)年

10月26日

編集事務局

S.Oshida

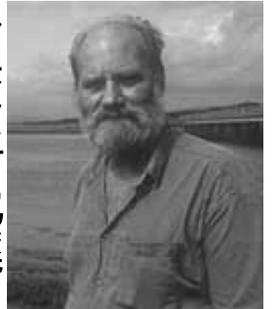
電話・ファックス

019-623-1636

《イギリス・セラフィールド再処理工場の今を語る》 マーティン・フォーウッド氏 報告会

11月20日(日) 14:00~16:30 LiRiO(リリオ)大通り1-11-8 Tel 019-623-2520

マーティン・フォーウッド氏



核汚染の監視活動を
続けて二十年余

セラフィールド再処理工場のあるイングランド北西部カンブリア地方の環境の放射能汚染に反対するカンブリア人の会「RE」の活動家、マーティン・フォーウッドさんの来日を機会に報告会を開催します。

《RE》は一九八〇年に核燃料がセラフィールドに運び込まれるのに反対するたたかいの中から生まれました。

最近の十年はセラフィールドにあるソープ再処理工場を停止するたたかいや、英国の核廃棄物局が国内と海外の廃棄物を埋めるため、湖水地方の湖畔に深地層処分場を建設しようとした計画を阻止するなど、いくつかの大きな活動に取り組んで来ました。

気象庁から「ア」へ

マーティン・フォーウッドさんは現在六二歳。英国ウエール地方の生まれです。様々な職業を経て気象庁に勤めましたが一九八五年から、《ア》の活動に加わり放射能環境汚染と闘い続けています。現在はセラフィールドから約二五キロの町にパートナーと共に住んでいて、三人の成人した娘の父親でもあります。

最も美しい海岸だった
セラフィールド付近

再処理工場のあるカンブリア地方は、古生代の火山活動で出来た湖水の美しい景観で有名です。



フォーウッド氏
報告会成功のための
百人委員会

十月二十日、盛岡市内に、十余人が集まり、マーティン・フォーウッド氏報告会の企画を話し合いました。

た。しかし、一九七〇年代の大規模な放射能垂れ流しによって、海底土壌は放射能によって汚され、現在でもセシウムやプルトニウムが検出されています。

地元に住し環境を守るために活動を続けてきたマーティン・フォーウッドさんの報告会には是非お集まり下さい。

今回の報告会の目的は実際に稼働し汚染が始まっているセラフィールド再処理工場の現状報告を受け、私たちの六ヶ所再処理工場を稼働させない運動に繋げてゆくことにあります。『再処理工場の放射能で三陸の海を汚してはならない』という共通認識のもと報告会を成功させたいものです。

報告会は、賛同する市民による手作りの運動をめざします。マーティン・フォーウッド氏報告会成功のための『百人委員会』への多くの方々の参加を呼びかけます。

連絡先 電話・FAX
〇一九六六一
六七二六(森方)
報告会実現のため
一口千円のカンパを
郵便振替口座番号
〇二四〇
五二〇二六五〇
口座名称
三陸の海を放射能から
守る岩手の会
資料に百人委員会として
お名前を掲載する
可否を通信欄にご記入
ください

青森県知事へ アクティブ試験開始 のための安全協定を 結ばない事を求める 署名開始

六ヶ所再処理工場に
ついての私たちの要請署
名は、短期間に六千人
近く集まり、九月県議
会中に増田知事と伊藤
議長に届けられました。

県議会は「三陸の海を
放射能から守る請願」を
全会一致で採択し、岩
手県民への説明と、アク
ティブ試験について慎重
を期するとして、三陸沿岸
の環境評価を行うこと
を青森県と原燃に求め
る事となりました。

守る会は、三陸の海を
守るために、新に、青森
県知事に次のような要
請署名を提起します。

「三陸沿岸の岩手県民
の理解が得られるまで、
再処理工場のアクティブ
試験操作開始のための
安全協定を結ばないこ
と」という趣旨です。多
くの人の協力をお願い
します。



岩手県議会ホームページ 「三陸の海を守る 請願採択」を報道

インターネットホーム
ページ「岩手県議会」を
開くと九月県議会の報
告が掲載されています。

採択された請願の欄
に、私たちの会の「三陸の
海を放射能から守る請
願」が、「採択」と記され
請願文も全文掲載され
ています。

さらに、「映像と音
声」で、十月三日の本会
議の様子が分かります。

飯澤匡委員長は「環境
福祉委員会では、この問
題は科学的知識が要求
され充分精査するため
継続審議とするべきだと
の意見と、県民の不安に
応えるため時期を逸せ
ず現時点で採択するべき
だとする意見が出まし
た。採決の結果、全会一
致で採択と決定しまし
た」と報告し、本会議で
全員起立で可決され、
その時の動画映像が流
されています。

ところで、この請願採
択のニュースは、私たちの
知る限り、今のところマ
スコミ各社は報道してい
ません。増田知事への要

請行動は切り離して報
道されています。命と暮
らしに関わる請願が県
議会で採択されたとい
う大きなニュースを県内

日本原燃(株)の回答 要点とその批判② 環境アセスメントについて

私たちの質問

放出口からの海流は
どうなっているのか。海
底土、海産物への影響は
健康調査は、など。

原燃回答要約

六ヶ所村前面の「放
射線量の最大になる地
点での放射線の量は年間
約0.0031ミリシーベ
ルトで、自然放射能と比
較して充分小さい」「三
陸沿岸での予測は行って
いませんが、拡散・希釈
され放射線量はさらに
低くなる。

生物濃縮について 国
内のフィールドデータに
よる、可食部に関するデ
ータを使用した安全評
価とした。

排水に当たってはサン
プリングして分析、測定
し年間管理目標値を超
えないように放出する。

のマスコミが報道しないの
は本当に不思議なこと
だといつ疑問の声を、各
地であがっています。

私たちの批判

「三陸沿岸での予測を行
っていませんが」で「通
るのか？」

回答には「三陸沿岸で
の予測は行っていません」
と明記され、従って、三
陸の海の地図や諸デー
タはない、「六ヶ所沿岸の
最高値になりそうな場
所で0.0031ミリシー
ベルトである」と答えてい
るが、この数値は、トリ
チウムについて工場周辺

での放射線量として一度
出されたものと同じ数
値である。これは海中な
のか陸上なのか？

「この曖昧な数値の上に
より遠方の三陸沿岸な
どではさらに拡散・希釈
されることから、放射線
の量はさらに低くなりま
す」と書かれ、三陸の海
は念頭にないようであり
誠意ある回答とは思わ
れない。

実際に、市民団体が、
二〇〇二年八月二六日
に六ヶ所海岸沖合から
流した一万枚の漂流調
査ハカキは、左図のよう
に、三陸沿岸にも流れ着
いている。 県議会福祉
環境常任委員会での審
議でも出されたように、
リアス式海岸に、放射
能のよどみをつつたり
六千年もの半減期のプ
ロトウムなどの蓄積が続

六ヶ所海岸から流した二万枚の漂流ハカキの
到達海岸 二〇〇二年八月〜二月実施



くとも予測される。
放射能濃縮について
過小評価ではないか

回答では、彼らの作っ
た「事業指定申請書」の
「海産物の濃縮係数」の
表を載せている。魚・海
藻・貝類・頭足・甲殻類につ
いて、日本国内のフィー
ルドデータを重視し選
定し、ヨロ素、プルトニ
ウムなど十種の放射能のベ
クトル比が示されている。
しかし例えば、セシウム
の魚類可食部では三〇
倍となっているが、セラフ
イルド周辺の魚では最
大値一八〇倍のデータ
が報告されている。六倍
の開きがあり、汚染現
地「でもっと詳細なデ
ータが必要である。」

サンプル五項目とは

放流前貯槽からの排
水測定項目はわずかに
五項目。プルトニウムウ
ラン、ストロンチウムな
どの核種は測定項目に
ない。アルファ線につ
いても実際には測定は極
めて困難である。

三陸の海を守るために、
科学的知識と漁民の経
験を総動員して疑問の
残らない環境影響評価
を行う必要がある。